



1

演出ノート

のこぎり山に 夏がやってきたー。
キャンプに きた人たちで 山は どころ
も 大にぎわい！

はずんだ声で語
り始める。

「ヤッホー」

遠くから叫ぶよ
うに大きな声で

「すばやくぬくー」



2

演出ノート

語りかけるように

元気よく楽しそうに

おどろいた様子
で
ポンポンおこった様子で

「そう！ そうなんですよ。」
のこぎり山には、昔から カン助とい
てんぐが すんでいて、いまでも 山か
ら 谷へ、谷から 山へと、ビュンビュ
ンと とびまわって いるそうです。

ーぬきながらー

カン助
「ひゃあー だっだれだー きれいな
山に アキカン を すてたのはー」



3

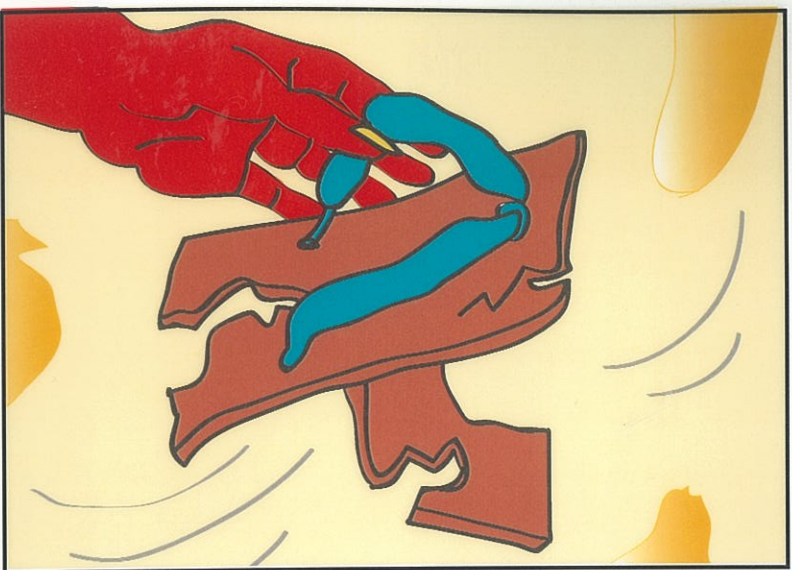
演出ノート

てんぐの カン助は、アキカン を ふん
ずけ、すってん ころりん！

「あいたたた・・・ありゃあ。こりや
大変。」

こっけいに
大きな声でおど
るきながら

カン助



4

演出ノート

カン助 「おれの 大事な 木のげたが こわれ
ちまったぞー！」

おこりながら

(少しの間)

ひどいことになつたぞー！」

ーゆっくりぬきながらー

カン助 「だれも かたづけられないから、こんなこ
とになつちまうんだ。」

こまった様子で
語りかけるよう
に



5

演出ノート

カン助 「いやあー ある、ある、こんなに
たくさん！」

カン助は、ていねいに 一つ一つ ひろ
い 集めた。

ーゆっくりぬきながらー

そして 夜中まで、かかりました。

ゆっくりと大き
な声で熱っぽく
やさしそうに語
る

ゆっくり



6

演出ノート

てんぐの カン助は、アキカンを、ひと
まとめにして ヒヨイと かついで 山
を おりて 行きました。

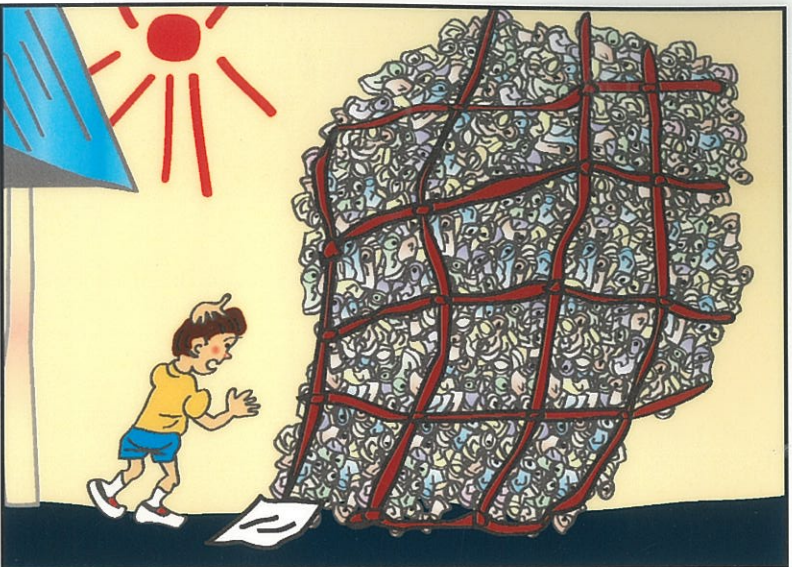
ケンちゃんの 家の 庭に どすーんと
おいて のこぎり山へ すたこら 帰っ
て 行きました。

ーぬきながらー

朝がきた！

間をとりながら
自然につきぎの場
面にながす。
(どすーんの部
分) 強く

明るい声で



7

演出ノート

びっくりした声
で力をこめて言
う。

不思議そうに

考えているよう
に

ケンちゃん

「ヤヤッー。だれだ！ こんなに たく
さん アキカンをおいて いったのは
？」

ケンちゃんは とつぜんの ことで
びっくりしました。

ケンちゃん

「おや！？ 手紙が あるぞー」

ーぬきながらー

ケンちゃん

「うん」



8

演出ノート

(カン助の声で)
子供達に語りか
けるように

ちよっと悲しそ
うに

『ケンちゃんへ！
この アキカンは、のこぎり山に、
すてて あった ものです。おれは、
アキカンを ふんづけ、大切な 木の
げたが こわれ、もう飛び上がる こ
とが出来ません。こんなことが 二度
と ないように、アキカンを 山に
すてないで ください。』

のこぎり山の カン助より』

ーぬきながらー

「お母さん！ お母さん！」

あわてた様子で

ケンちゃん



9

演出ノート

びっくりした様子
で
大きくかん高い声
で

こまった様子で

とくいげに

自然に場面を移し
ながら

お母さん

ケンちゃん

「どうしたの 朝から大きな声で……。」

「見て 見て！ てんぐのカン助からの
手紙だよ。」

お母さんは 手紙を 読んで……

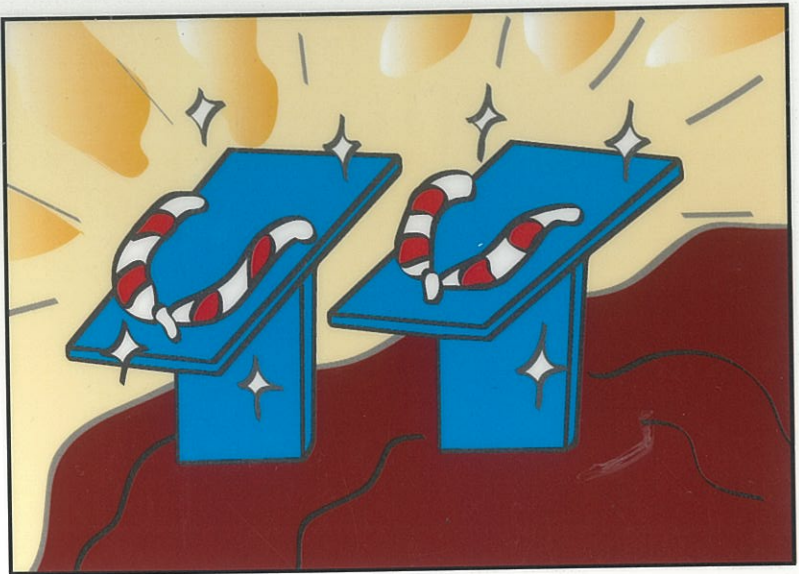
『私たち、みんなのせいで こんなこと
に なってしまったのねえ。』

「いい考えがあるよ。」

(間)

――ぬきながら――

そして のごぎり山に 秋がきた。



10

演出ノート

カン助

ある日のこと、

「わあーい。ピカピカの ゲタだ！」

カン助は さっそく はいてみました。

それは 古びた 木の ゲタではなく、

真新しい 鉄のゲタでした。

――さつとぬく――

カン助は、また もとのように 元気に

山から 谷へ 飛びこえて 行きました。

大きな声でうれし
そうに

熱っぽく

楽しそうに



11

演出ノート

実は、あのゲタは アキカンをとかし
て つくりなおしたもののなのです。

カン助の やさしい 気持ちと ケンち
やんからの 贈りものの お話しが 人
から人へ つたえられました。

(間)

それいらい のこぎり山に アキカン
すてる人は いなくなつたとさ！

---おしまい---

ないしょ話をする
ように

子供達にいいきか
せるように

最後は元気よく